【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公開番号】特開2007-64188(P2007-64188A)
【公開日】平成19年3月15日(2007.3.15)
【年通号数】公開・登録公報2007-010
【出願番号】特願2005-255184(P2005-255184)
【国際特許分類】
Ｆ０１Ｎ　7/00　(2006.01)
Ｆ０１Ｎ　1/04　(2006.01)
Ｆ０１Ｎ　1/08　(2006.01)
Ｆ０１Ｎ　1/02　(2006.01)
Ｈ０１Ｍ　8/06　(2006.01)
Ｈ０１Ｍ　8/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０１Ｎ　7/00　Ｂ
Ｆ０１Ｎ　1/04　Ｂ
Ｆ０１Ｎ　1/04　Ｋ
Ｆ０１Ｎ　1/08　Ｓ
Ｆ０１Ｎ　1/02　Ｋ
Ｈ０１Ｍ　8/06　Ｗ
Ｈ０１Ｍ　8/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成20年6月10日(2008.6.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
燃料電池スタック（２）を動力源として備える燃料電池自動車に用いられ、前記燃料電池スタック（２）にて発生した水蒸気からなる排気を流通させる排気管（３）と、この排気管（３）に接続され前記排気に起因する騒音を低減するマフラー（６）と、前記マフラー（６）内に設けられ前記騒音を吸収するための吸音材（１２）を充填してなる吸音室（１１）とを備えた排気装置において、
前記排気中に含まれる凝縮水（１３）を、前記吸音室（１１）に消音劣化に影響のない量を溜めて、その凝縮水（１３）の水面（１３ａ）よりも上の位置に排水孔（１０）を設けた
ことを特徴とする排気装置。
【請求項２】
請求項１に記載の排気装置（１）であって、
前記吸音室（１１）に溜める凝縮水（１３）の量は、前記吸音室（１１）に充填される前記吸音材（１２）の全体積のうち４〔％〕が浸る量とした
ことを特徴とする排気装置。
【請求項３】
請求項１に記載の排気装置（１）であって、
排水孔面に対して重力が垂直以下の角度に働き表面張力により塞がれない位置に排水孔

（１０）を設けた
　ことを特徴とする排気装置。
【請求項４】
　請求項２に記載の排気装置（１）であって、
　前記排水孔（１０）は、排気装置の底面からの高さが前記吸音室（１１）に充填される前記吸音材（１２）の全体積の４〔％〕以下の体積となる位置に設けた
　ことを特徴とする排気装置
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
　また、シェル６ｃの外周における所定位置には、マフラー６を車体に取り付けるための取付用フック９が溶接法等の手法を用いて固定されているとともに、このマフラー６の内部には、騒音を吸収するための吸音材１２が充填されてなる吸音室１１が形成されている。さらに、導入管７と排気管８とを連通する排気チューブには、騒音を充填された吸音材１２に放出して低減するための複数の放出孔７ａが設けられている。凝縮水１３はこの放出孔７ａを通って吸音室１１へ排出される。